

幕末神戸の街に炭鉱 !! 神戸開港と密接に関係した「幻の神戸石炭」

高取山北麓 車・妙法寺の石炭 幕末神戸開港に一役 !! 寄港する外国蒸気船の石炭供給基地

2016.3月12日 神戸新聞の記事より



2016/3/12 16:01 神戸新聞の夕刊に「幻の神戸石炭 ひもとく資料 幕末に脚光、開港と密接な関係」との大きな見出しの記事が掲載された。そして 記事に掲載されている地図には 自宅のある若草町の地域が示されている。自宅の周辺から石炭が出る!! ビックリして記事を読む

記事には市立博物館で開催中の特別展に展示された石炭塊展示写真 並びに炭鉱があった位置を示す絵図・古地図・古文書などについて 概況がまとめて掲載されていた。

幕末から明治時代にかけて神戸市須磨区の高取山周辺にあった炭鉱の資料が、同市立博物館（同市中央区）の特別展「須磨の歴史と文化展」で公開されている。

鉱脈の絵地図や発掘記録のほか、1990年代に工事現場で採集された石炭の現物など所蔵品5点で、同館では初めての展示。

150年ほど前の神戸開港に深くかわり、人知れず姿を消した“神戸 石炭”の存在が浮かび上がる。

明治政府の事業で編集された「兵庫縣史料」では、須磨区車、妙法寺周辺とみられる「生焼谷」や「清水谷」で採掘の記録があるが、1975（明治8）年以降は不明。神戸市史では「長続きはしなかった」との記述にとどまる。

特別展では、その後少なくとも10年以上採掘が続いていたことを示す1985（明治18）年前後の史料を初公開され、神戸や大阪の商人が兵庫県令（現・県知事）に開発を請う「借區開坑願」や、作業員の人数や採掘量を記した「借區坑業明細表」などが展示されている。。

また、産出した石炭は、実際に蒸気船の燃料などに使われたとみられるが、具体的な用途は不明という。閉山の時期、経緯などは分かっておらず、炭鉱の痕跡も宅地開発などによりほぼ消滅。

また、特別展では 往時をうかがわせるような発見として、1992年に市営地下鉄妙法寺駅周辺の工事現場で見つかった石炭も展示されている。





幻の神戸石炭の記事に掲載されていた特別展須磨妙法寺奥の絵図と妙法寺駅北で出土した石炭展示

炭鉱は、現在の神戸市須磨区車、同区妙法寺の一带に広がっていたとされ、1857(安政4)年に最古の開発記録が残る。採掘は60年代に本格化したとみられ、この頃の絵地図には鉱脈や坑道の入り口が記されている。

同館や「神戸市史」によると、欧米諸国の開国の圧力が強まり、江戸幕府が神戸への外国船の寄港を見据えて燃料確保に迫られた背景がある。鉱脈を探し当てる山師を生野鉱山(朝来市)から連れてきたという。

明治政府の事業で編集された「兵庫縣史料」では、須磨区車、妙法寺周辺とみられる「生焼谷」や「清水谷」で採掘の記録があるが、75(明治8)年以降は不明。神戸市史では「長続きはしなかった」との記述にとどまる。

特別展では、神戸開港後、少なくとも10年以上採掘が続いていたことを示す85(同18)年前後の史料を初公開。

神戸や大阪の商人が兵庫県令(現・県知事)に開発を請う「借区開坑願」や、作業員の人数や採掘量を記した「借区坑業明細表」などが展示されている。

産出した石炭は、実際に蒸気船の燃料などに使われたとみられるが、具体的な用途は不明という。閉山の時期、経緯などは分かっておらず、炭鉱の痕跡も宅地開発などによりほぼ消滅。一方で、1992年に市営地下鉄妙法寺駅周辺の工事現場で石炭が見つかるなど、往時をうかがわせるような発見もある。



妙法寺・車村周辺の炭鉱を記した絵地図 1866《慶応2》

2016/3/12 神戸新聞電子版Nextより

この炭鉱が記載されている位置は 東西に連なる西六甲高取山と横尾山・宮山の北側に切り開かれた広大な名谷ニュータウンが連なる東端の一角の妙法寺・車地区。妙法寺川が流れ下る古くからの街道筋で、崖が続く須磨海岸の難路を避けて、北へ高取山・横尾山の二つの山の切れ目を抜けて、さらに北の白川峠へ登り、播州や有馬へ抜けてゆく古くからの街道筋である。今も妙法寺川に沿って山間を妙法寺・車の集落を抜けて北の白川峠を越え、三木へ至る神戸三木線が走り、同時にこの山間を並行して、トンネルで地下鉄と阪神高速道路が抜けてゆく。また、北の白川峠のすぐ下には 六甲山系の山中を東西にトンネルで山陽新幹線が抜け、また、並行して山間を山麓バイパスが神戸の三ノ宮・新神戸と西の西神地区のニュータウンを結んでいる。この白川峠下の妙法寺川の源流部 山麓バイパスと神戸三木線がぶつかる車地区 神戸三木線の道路の西側の谷筋が、車・妙法寺周辺が炭鉱があった場所で 東側の丘 若草山に開かれた若草町の街沿いの谷筋でした。

新聞では南北が横向きに掲載されていてわかりにくかったのですが、南北に地図の向きを変えてみて位置がはっきりした。

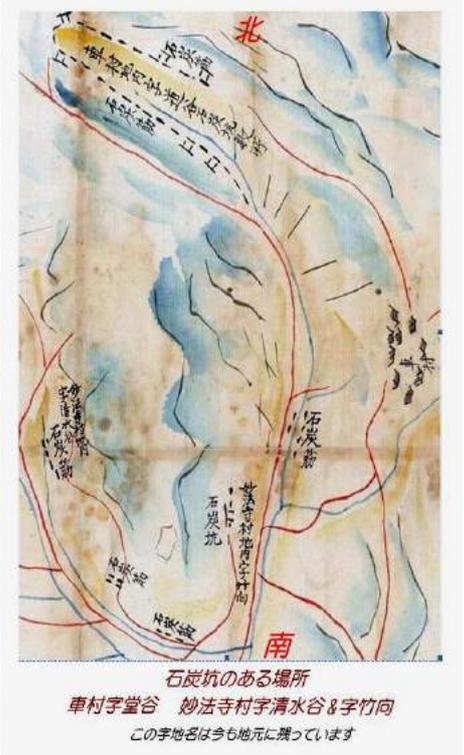
絵図には妙法寺村・車村の地名 さらに炭鉱の坑口のマークが字名とともにいくつも書かれていて、幕末にはこの一帯で石炭が採取されていたことは確かなようだ。しかも、幕末の神戸開港は この地の石炭を蒸気船の燃料とすることで スタートしたという。 今まで全く知らなかった史実にびっくり。

それにしても、この周辺は随分歩いたつもりでしたが、全く 石炭がこの地から出るとは知りませんでした。

仕事で山口県の炭田地帯美祢に赴任していたこともあり、石炭層については 何度も見てよく知っていましたが……………もう ビックリです。



写真左手の山裾を奥へ神戸-三木線が妙法寺・車の集落を抜けてゆく 南の横尾山より



1866 (慶応2)年に作成された車村、妙法寺村(当時)周辺の炭鉱を記した絵地図(部分)と絵図の現在地図との対比記載されている地名は今も 妙法寺川沿いに北の白川峠へ登ってゆく神戸-三木線 妙法寺・車の集落の字地名として残っている。

太古の昔、この神戸市須磨区・北区あたりから三田周辺にまでの地域一帯には 古神戸湖と呼ばれる巨大な湖があった。この湖底に火山灰が堆積してできた凝灰岩と泥岩、そして河原に堆積した砂や礫が固まってできた砂岩、礫岩によって、神戸層群と呼ばれる地層が作られた。

基本的には凝灰岩、泥岩、砂岩、礫岩の4層からなり、全体に白っぽい色をしているのが特徴。白い凝灰岩の分厚い地層が幾重にも重なっており、この神戸層群の地層にその後の地殻変動で花崗岩盤質の地層が突き上げ、いくつもの断層とともに、高取山・横尾山など東西に連なる西六甲山系の山並みを形成し、現在の須磨区周辺の地質・地形が形成されました。

この神戸層内には完全な形の植物化石を多く含み、特に白川峠周辺は植物化石の宝庫として、のどかな神戸の山間の化石採りのハイキングコースとして親しまれた。

その後 この一帯は土地開発が進み、新しいニュータウンが次々と造成され、新しい市街地がひろがっているが、今も山裾の道端で石を拾って探すと いくつも化石が見つかることがある。



神戸層群白川層から出土する化石 妙法寺川物語より

話を神戸の石炭に戻すと、

この神戸層群の泥岩層などの中に 濃密に樹木など植物が封じ込められるとそれが炭化し、炭化の割合により亜炭・石炭を形成する。私はよく知らなかったのですが、この高取山周辺はそんな石炭・亜炭を産出し、幕末 英国人が高取山を「コーヒル（石炭山）」と呼ぶなど、幕末の神戸開港前後には石炭の産地として一定の知名度があったという。

特別展に展示されていた「神戸石炭」もそんなプロセスで形成された高取山北山麓の神戸層群に封じ込められた石炭と推定され、写真や展示を見た限りでは 通常見る石炭と比べ品質は良いとは思えず、亜炭系だったのだろうか……。



石炭 1992年 妙法寺駅北側 高速道路工事現場で採取
=神戸市立博物館

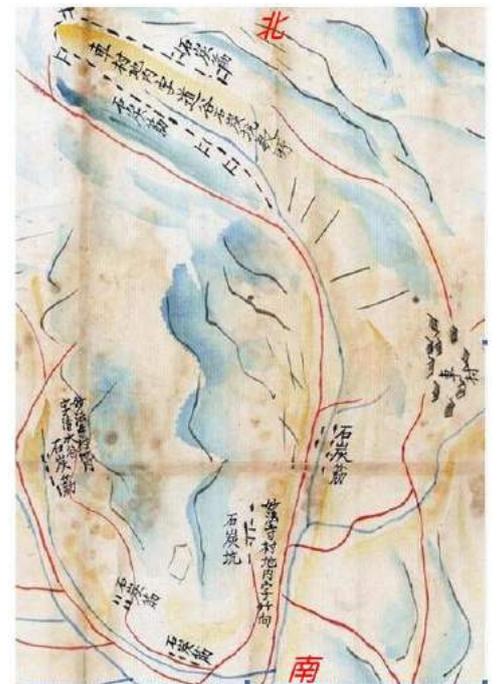
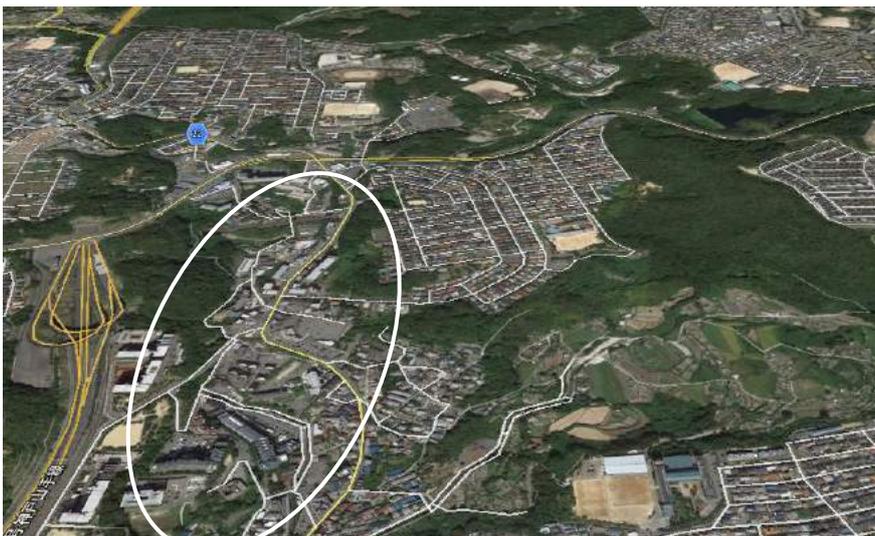


石炭の発掘場所



妙法寺で発掘された石炭

特別展に展示されていた石炭 並びに資料「妙法寺物語」に掲載されていた妙法寺地域で採取された石炭



石炭坑のある場所
車村字堂谷 妙法寺村字清水谷&字竹向
この字地名は今も地元に残っています

2016年3月17日 神戸市立博物館で開催されている特別展「須磨の歴史と文化展 受け継がれる記憶」へ。

小さなコーナーに新聞記事で紹介された絵図や資料と地下鉄妙法寺駅北の高速道路工事現場から出土した石炭が展示されているのみ。

もう少し詳しい産炭地の情報や産出された石炭についてわかるかと思いまし



石炭が採掘されていたと
みられる地域



石炭 1992年 妙法寺駅北側 高速道路工事現場で採取
=神戸市立博物館

だが、情報なし。 展示されている石炭を見る限り、炭化が進んだ石炭というより、亜炭に近く、燃料品質としても良いとは見え、品質の良い石炭が見つかるのと他の産地のものに次第に置き換えられ、短命に終わったことがうかがえる。

でも 幕末の切迫した状況の中 神戸の港に近くに燃料基地が見つかったことは本当に心強く、神戸開港の大きな要因になったろう。 神戸市史によれば1860年代前半に「神戸海軍操練所」にいた勝海舟が炭鉱開発を命じており、練習艦の燃料に使おうとしたとみられ、その後、現在の同市兵庫区に石炭を管理する施設が整備され、江戸幕府は諸大名の軍艦の石炭が不足したときに払い下げる ことを決めたといい、明治期に入っても採掘が続くが、具体的な用途は不明という。

また、87～88（明治20～21）年の採掘記録では、13カ月で131・25トン掘り、99%を売却したと記されており、活用されていたことは確からしい。

でも ほとんど詳細な資料はなく、また 坑口周辺の現地の様子もほとんど不明で「幻の神戸石炭と言われる所以であろう。

《妙法寺川物語に記載された幕末の高取山北麓 車・妙法寺村の石炭 妙法寺川物語より》

寄港する外国蒸気船の石炭供給基地 として高取山北麓 車・妙法寺の石炭が幕末 神戸開港に一役 !!

1853年開国を迫るペリー来航 1854年日米和親条約（神奈川条約）締結をスタートに

1858年（安政5年）の日米修好通商条約を初めとする安政五カ国条約を締結。

貿易を前提とした開港場として、箱館・神奈川（横浜）・新潟・兵庫（神戸）・長崎の5港が開港。

日本の鎖国が解けた。

幕末から明治へ 激動の近代化への歩みを始める第一歩。日本開国の1ページを飾る神戸開港である

江戸時代も終わりのころ、アメリカのペリー提督が率いる4隻の黒船が来て以来、西洋の国々の強い開国の要求に、日本国内は大慌てになりました。時の将軍徳川家茂は大阪湾を視察し、勝海舟の意見を取り入れて、神戸、湊川、和田岬の3ヶ所に大砲を置くとともに、船を操る技術を習い覚えさせるために、神戸海軍操練所を開くことを決めます。ここには坂本龍馬や陸奥宗光など、幕末から明治にかけ、活躍する人材が学んでいます。

勝海舟の考えは、神戸海軍操練所に、幕府が持っている2隻の蒸気船を練習用の船として配置し、その燃料には、当時高取山のふもとで発見されたという石炭を利用するというものでした。しかしその操練所は、2年後には閉鎖されてしまいました。

兵庫県での石炭は『兵庫県史料』では、車村、奥妙法寺村（現須磨区）で採掘されたとの記録があります。その後奥妙法寺村で新しい採掘坑が発見され、一日150人が働き、18tが産出されました。品質については中等の質であったといわれています。その後、石炭が神戸で採掘されたという事実さえ人々の記憶から消えていきました。また、12Pで紹介した旧国鉄の鷹取工場は、この石炭をあてにして設立されたという説もあります。



石炭の発掘場所



妙法寺で発掘された石炭

今や「幻の神戸石炭」と言われるほどに地元でも その痕跡は消え、忘れ去られているとしても日本近代化の歩みの第一歩に高取山北麓 車・妙法寺の石炭があったことは事実であろう。

特別展に展示されていた関連資料目録

- | | | |
|-------------------------|-------------------|----------|
| ◎ 摂州矢部都事村妙法寺村石炭等之図 | 江戸時代、慶応2年（1866）9月 | 神戸市立博物館蔵 |
| ◎ 倍区閑境既 鹿本墨書 1冊 | 明治18年（1885）8月 | 神戸市立博物館蔵 |
| ◎ 倍区坑業明細表 紙本墨書 1枚 | 明治20年（1887）5月 | 神戸市立博物館蔵 |
| ◎ 摂津国八部都全図 紙本銅版手彩 1枚 | 明治18年（1885） | 神戸市立博物館蔵 |
| ◎ 妙法寺駅北側高刈 速道路工事現場 石炭3点 | 平成4年（1992）採取 | 神戸市立博物館蔵 |

◆ 高取山北麓 幕末の車・妙法寺村 石炭採炭地を訪ねる

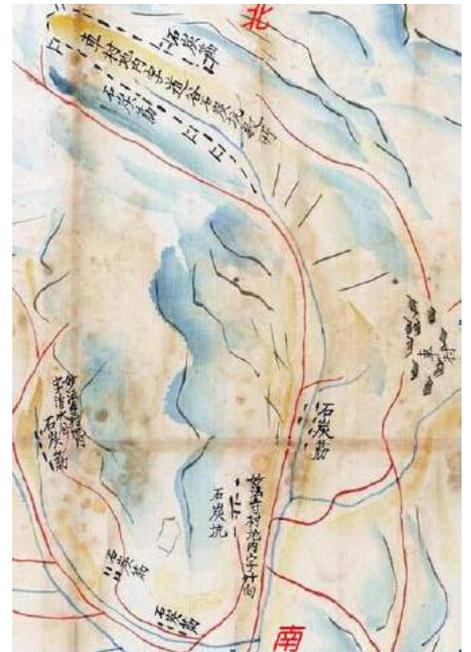


横尾山・宮山の登山路より 幕末の採炭地が眠る 北側 妙法寺・車の集落から白川峠方面遠望

右端にトンネルを抜けて 妙法寺駅から北へ伸びる阪神高速道路
中央奥に山麓バイパス沿い若草山から鶴越の住宅地
一番手前 左から横尾団地 そして 右端に高取山が見える。

また、高速道路沿い左の緑の帯が 妙法寺川沿いの江戸時代の絵図に
記載された採炭地の谷筋で、手前から奥へ 妙法寺駅周辺の妙法寺字竹向
妙法寺清水谷 そして 山麓バイパス下の道谷 その横に若草山・車の集落

幻の神戸石炭の採炭地の谷筋は 私の自宅周辺でいつも見慣れた地域ですが、
いずれも住宅地に開発された谷筋で、じっくり眺めたことなし。
もう 石炭の痕跡はほとんどみつからないとおもいますが、地図に記載された
幻の神戸石炭の採炭地の地名もがわかりましたので 訪ねてみ見ました。



《 幻の神戸石炭の採炭地として得ずに記載された場所の今 》

1. 妙法寺字道谷 山麓バイパス下 西に高速道路白川南IC 東に神戸
-三木線に挟まれた狭い谷筋で、谷の中央をを東西に山陽新幹線が抜けてゆく。
2. 車 車大道 車集落の北端 車大道のバス停のすぐ東北現在パチンコ店の上
若草山の山裾の丘周辺で採炭していたと伝えられている。
3. 妙法寺字清水谷 道谷・車大道の下の谷筋で 西の丘の上に白川南IC に沿う谷筋に
大きなマンションがのの上に建つ
4. 妙法寺竹向 妙法寺駅の東 妙法寺川広畑橋周辺 妙法寺川が流れ下る東の谷筋と西の清水谷の出会い周辺

神戸三木線 妙法寺・車周辺から眺めた 幻の神戸石炭の産炭地周辺の今

1. 妙法寺字道谷 山麓バイパス下 西に高速道路白川南IC 東に神戸
-三木線に挟まれた狭い谷筋で、谷の中央をを東西に山陽新幹線が抜けてゆく。



山麓バイパスより 樹木・雑草におおわれた道谷を眺める 左奥に高取山が見える

東に高取山 中央奥に横尾山が見える谷筋の一番奥で 山麓バイパスを挟んで 反対側すぐ上が白川峠である
この狭い谷筋を東西に新幹線が谷を渡る道谷 その下にはマンションの建つ妙法寺 清水谷方面を眺める
狭い谷筋に今は道がなく、樹木や竹そして雑草に覆われ、入れない。



神戸/三木線側から 道谷の北の山麓バイパスを眺める



若草町横の神戸三木線 右側に若草山 左側道谷の谷筋に挟まれ、神戸/三木線が北へ

2. 車 車大道周辺

車集落の北端 神戸/三木線 車大道のバス停のすぐ東北現在パチンコ店の背後 若草山の山裾の丘周辺で採炭していたと地本の人と言うと伝えられている。



清水谷に架かる橋から東の車集落方面を眺める 採炭したといわれるパチンコ店の赤い看板が見える



神戸/三木線 車王道 清水谷への分岐



神戸三木線 車大道 バス停

3. 妙法寺字清水谷

道谷・車大道の下の谷筋で 西の丘の上に白川南ICに沿って 大きなマンションが谷に筋の上に建つ



若草町から南西の清水谷方面を眺める



住宅・マンションが立ち並び清水谷

4. 妙法寺竹向

妙法寺駅の東 妙法寺川広畑橋周辺 妙法寺川が流れ下る東の谷筋と西の清水谷の出会い周辺



若草山の南から 南西の広畑橋へ流れ下る妙法寺川から広畑橋・妙法寺駅方面を眺める

幕末に脚光、開港と密接な関係

幻の神戸石炭 ひもとく史料



絵地図や採掘記録など神戸石炭の関連資料が並ぶ特別展「神戸市立博物館」

幕末から明治時代にかけて神戸市須磨区の
高取山周辺にあった炭鉱の資料が、同市立博
物館(同市中央区)の特別展「須磨の歴史と
文化展」で公開されている。鉱脈の絵地図や

市立博物館で特別展

発掘記録のほか、1990年代に工事現場で
採集された石炭の現物など所蔵品らで、同
館では初めての展示。150年ほど前の神戸
開港に深くかかわり、人知れず姿を消した神
戸石炭の存在が浮かび上がる。

(小川 昌)

炭鉱は、現在の神戸市須磨区が主導し、神戸75(明治8)年以降はの史料を初公開。神戸市須磨区車、同区妙法寺の一带に広がっていた見据えて燃料確保に迫られた背景がある。鉱脈を請う開坑願や、作

鉱脈の絵地図、現物など初展示

特別展では、その後、業員の人数や採掘量を
掘が続いていたことを、産出した石炭は、実
示す85(同18)年前後

明治政府の事業で編
集された「兵庫縣史料」
では、須磨区車、妙法
寺周辺とみられる「生
焼谷」や「清水谷」で
採掘の記録があるが、



1860年(慶応6)年に作成された車村妙法寺村(当時)周辺の炭産を記した絵地図。「石炭跡」に沿って坑道の入り口とみられる印が並ぶ神戸市立博物館特別展



石炭が採掘されていたとみられる地域

神戸石炭が何に使われ
なせ消えていったのか。神
戸開港と密接な関係がありな
がら、具体的な記録や伝承に
乏しく、多くの謎が残されて
いる。

神戸市史によると、1860
0年代前半に「神戸海軍操練
所」にいた勝海舟が炭産開採
を命じており、練習艦の燃料
に使おうとしたとみられる。
その後、現在の同市兵庫区に
石炭を管理する施設が整備さ
れ、江戸幕府は諸大名の重艦
の石炭が不足したときに払い
下げることを決めた。

明治期に入っても採掘が終
くが、具体的な用途は不明。
87-88(明治20-21)年の採
掘記録では、13カ月で1301

用途、閉山時期 記録乏しく

25tを掘り、99%を売却し
たと記されており、活用され
ていたことは確からしい。同
市立博物館は、蒸気船の燃料
のほか、74(同7)年に大阪
-神戸間で開業した蒸気機関
車などに使われたのでは、と
みている。

神戸の地域史に詳しい園田
宇國玄千大の田辺眞人名誉教
授によると、英国人が高取山
を「コールヒル(石炭山)」
と呼び、開港前は産地
として一定の知名度があった
という。「品質や産出量に問
題があり、近代化の流れの中
で各地の炭産に取って代われ
たのが、この地と推測する」

(小川 昌)

石炭が見つかるまで、
往時をかがわせるよ
うな発見もある。
同館は、開港150
年に向けて調査や分析
を進める方針。高久留
広学芸員は「開港後の
華やかな歴史に注目
する中で、開港に至
る幕末の動きにもス
ットを当てたい」と話
している。

特別展は21日まで。
同館078・391
・0035